

気候情報

2016年7月の日本の天候

- 東・西日本、沖縄・奄美は高温、北日本の気温は平年並
- 東日本太平洋側と東北地方の降水量は少なかった
- 九州南部の降水量はかなり多かった

7月の天気概況

月の前半は、梅雨前線の活動が西日本付近で活発だったため、西日本では九州を中心に所々で大雨となり、九州南部の月降水量はかなり多くなった。一方、東日本付近では梅雨前線の活動は全般に不活発だったため、東日本太平洋側と東北地方の月降水量は少なかった。

気温は、東日本では、気温の変動が大きかったが月平均気温は高かった。西日本では、上旬と月の終わり頃に暖かい空気に覆われ猛暑日となった所もあり、月平均気温は高かった。沖縄・奄美では、月を通して太平洋高気圧に覆われて晴れて暖かい空気に覆われたため、月平均気温は平年差+0.9℃で1946年の統計開始以来1位タイの高温となった。

上旬：旬の中頃までは梅雨前線が日本海に停滞し、前線上の低気圧が発達しながら北日本を通過した。このため、北日本の所々で大雨となった。旬の終わり頃は、梅雨前線が東・西日本付近に停滞したため本州付近には南から暖かく湿った空気が流れ込み、西日本太平洋側では九州を中心に大雨となった所があった。

旬平均気温は、西日本、沖縄・奄美ではかなり高く、北・東日本で高かった。

旬降水量は、北日本日本海側、沖縄・奄美ではかなり多く、西日本太平洋側で多かった。一方、東日本太平洋側で少なく、北日本太平洋側、東・西日本日本海側では平年並だった。

旬間日照時間は、東日本太平洋側、西日本で多く、北日本、東日本日本海側、沖縄・奄美では平年並だった。

中旬：東・西日本では、旬の中頃まで梅雨前線が本州付近に停滞したため曇りや雨の日が多く、西日本付近で前線活動が活発化したため、九州を中心に大雨となった所があった。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、南からの暖かく湿った気流の影響で、旬の初めと終わり頃は曇りや雨の所があった。

なお、九州南部、九州北部、四国、中国、近畿、東海の各地方では、18日頃に梅雨明けした（速報値）。

旬平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高く、北・東・西日本で平年並だった。

旬降水量は、北・東日本太平洋側で少なく、北・東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美で平年並だった。

旬間日照時間は、北日本、東日本太平洋側で多く、東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美で平年並だった。

下旬：旬の中頃までは本州付近は北に偏った高気圧に覆われたため、北日本日本海側を中心に日本海側で晴れの日が多かったが、26日～27日は気圧の谷の影響

で、東日本日本海側では記録的な大雨となった所があった。旬の終わり頃は、本州付近は太平洋高気圧に覆われ、東北以南では晴れて猛暑日となった所があったが、北海道では前線や低気圧の影響で雨が降り、大雨となった所があった。

なお、北陸地方では22日頃、関東甲信地方は28日頃、東北地方は29日頃に梅雨明けした（速報値）。

旬平均気温は、東日本で低く、北・西日本で平年並だった。一方、沖縄・奄美ではかなり高かった。

旬降水量は、西日本、沖縄・奄美で少なかった。一方、北・東日本日本海側で多く、北・東日本太平洋側では平年並だった。

旬間日照時間は、北・西日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。一方、北・東日本太平洋側で少なく、東日本日本海側、西日本太平洋側で平年並だった。

7月の気候統計

月平均気温：沖縄・奄美ではかなり高く、東・西日本で高かった。北日本では平年並だった。

月降水量：北日本、西日本太平洋側ではかなり多く、西日本日本海側では多かった。東日本では平年並、沖縄・奄美では少なかった。

月間日照時間：北日本日本海側、西日本では少なく、東日本日本海側、奄美・沖縄では多かった。北・東日本太平洋側では平年並だった。

（気象庁観測部情報管理室）

7月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温高い方から（℃）
久米島 29.8
- ・月降水量少ない方から（mm）
白河 54.0

2016年7月の平年差（比）図

